

# 不動産学の魅力

明海大学 不動産学部

第99回



米今 裕哉  
不動産学部  
2年

私は高校在学中に測量士補の資格取得のために勉強したことから測量に興味を持った。高校の授業で、4人組でグラウンドの周囲を測量した際には3〜4時間かかり時間と労力がかかることを実感した。更に、森での測量は傾斜が急で転倒することもあり、作業の大変さと危険性を感じた。

近年では、測量業者が20年連続減少しており、人手不足が深刻になっている。そのため、人の手に頼った測量や調査には限界が生じている。山林など危険な場所での測量作業では実際に滑落して死亡する事故も発生しており、安全対策の重要性が高まっている。また、崩落の危険がある空き家や災害による被害増加などなく、外観や屋根の状態を確認で

## ドローンによる測量と不動産の可能性

## 空き家や周辺環境の客観的な把握に

きる。災害時には上空から被害状況を記録することで建物への被害を安全かつ正確に記録することで不動産の復旧や価値評価の判断にも役立てることができる。

この春休みにドローンの資格取得に挑戦した。講習では機体の操作方法、安全に飛行するためのルールやリスク管理などを学び、正しい知識と高い安全意识がないと他人に迷惑をかけてしまうということを実感した。また、実際にドローンを操縦してみると、時間や労力のかかる測量を効率化できる可能性を感じた。

在学中には、千葉県木更津市の里地里山保全などの学びを通してドローンによる測量技術やデータの活用についてより理解を深めたい。また、空き家の建物調査や周辺環境

を客観的に把握して適切な管理や活用方法を検討できるようにしていきたい。そして、将来的には、不動産分野における課題解決に役立てていきたい。

不動産学は土地や建物といった資産を扱うだけではなく、人の生活や地域社会に深く関わる学問であり、ドローンなどの新しい技術を生かして社会に貢献できる点に大きな魅力を感じる。今後はこれらの知識と技術を結び付け、実社会で活躍できる人材に成長したい。

### 【教員コメント】

明海大学不動産学部では、空き家や廃校といった遊休不動産を対象に、ドローンによる空撮を活用した調査を行い、不動産の調査や利活用の新たな可能性を探っている。このプロセスは、学生と教員が協働して継続的に取り組む社会実践型の学修となっている。

(秦瑞希)